



JFE

**JFEグループ
インベスターズ・ミーティング**

**2020年5月12日
JFEホールディングス株式会社**



1. JFEグループ2019年度決算
2. 2020年度業績予想
3. 新型コロナウイルス感染拡大の影響とそれに伴う対応
4. 中長期的な成長に向けた取り組みの状況

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、提示された予測等は説明会の時点で入手された情報に基づくものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控え下さいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

JFEグループ 2019年度決算



2019年度 決算概要

JFE

(億円)	2018年度 年間(A)	2019年度 年間(B)	増減 (B-A)	2019年度 見通し(C) ^{※2}	増減 (B-C)
売上収益	38,736	37,297	▲1,439	37,200	97
事業利益	2,320	378	▲1,942	450	▲72
金融損益	▲125	▲125	0	▲130	5
セグメント利益	2,195	253	▲1,942	320	▲67
個別開示項目	▲102	▲2,388 ^{※1}	▲2,286	▲2,200	▲188
税引前利益	2,093	▲2,134	▲4,227	▲1,880	▲254
税金費用・ 非支配持分帰属当期利益	▲458	157	615	▲20	177
親会社の所有者に帰属する 当期利益	1,635	▲1,977	▲3,612	▲1,900	▲77

事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの

セグメント利益：事業利益に金融損益を含めたもの

※1) 個別開示項目内訳：東日本製鉄所千葉地区減損損失▲1,466億円、京浜地区減損損失▲858億円、その他減損損失▲64億円

※2) 2020年3月27日公表 業績見直し修正



2019年度 決算概要 セグメント別

JFE

(億円)	2018年度 年間(A)	2019年度 年間(B)	増減 (B-A)	2019年度 見通し(C)	増減 (B-C)
鉄鋼事業	28,306	26,813	▲1,493	27,000	▲187
エンジニアリング事業	4,858	5,122	264	5,200	▲78
商社事業	11,258	10,841	▲417	10,900	▲59
調整額	▲5,686	▲5,480	206	▲5,900	420
売上収益	38,736	37,297	▲1,439	37,200	97
事業利益 (A)	2,320	378	▲1,942	450	▲72
金融損益 (B)	▲125	▲125	0	▲130	5
セグメント利益					
鉄鋼事業	1,613	▲87	▲1,700	0	▲87
エンジニアリング事業	201	231	30	230	1
商社事業	357	270	▲87	290	▲20
調整額	23	▲159 [※]	▲182	▲200	41
合計 (A+B)	2,195	253	▲1,942	320	▲67

※ 持分法適用会社ジャパン マリンユナイテッドの持分法投資損失▲179億円含む。

JFEスチール 2019年度決算



生産・出荷状況

JFE

	単位	2018年度	2019年度			年間 (B)	差異 (B-A)	2019年度 前回公表 (C)
		年間 (A)	上期	下期				
				3Q	4Q			
単独粗鋼生産量	万 t	2,631	1,379	624	670	2,673	42	2,700 程度
連結粗鋼生産量	万 t	2,788	1,450	659	700	2,809	21	2,840 程度
単独鋼材出荷量	万 t	2,378	1,180	559	609	2,347	▲31	2,380 程度
鋼材輸出比率 (単独・金額ベース)	%	41.7	41.0	39.7	44.4	41.5	▲0.2	41
鋼材平均価格	千円/t	81.5	79.9	79.6	76.1	78.8	▲2.7	79
為替レート	円/ドル	110.7	109.2	108.8	109.4	109.1	▲1.6	109
期末為替レート	円/ドル	111.0	107.9	109.6	108.8	108.8	▲2.2	



セグメント利益 ▲87 億円内訳

JFE

JFEスチール	2018年度 実績 (A)	2019年度 見通し (B)	2019年度 実績 (C)	(億円)	
				年度差異 2018年度 →2019年度 (C-A)	年度差異 見通し →実績 (C-B)
セグメント利益	1,613	0	▲87	▲1,700	▲87

- コスト ▲ 30
- 数量・構成 ▲ 60
- 販価・原料 + 50
- 棚卸資産評価差等 + 10
- その他 ▲ 57

棚卸資産評価差	+ 10 (▲230→▲220)
原料キャリーオーバー影響	▲ 20 (▲50→▲70)
為替換算差	+ 20 (▲30→▲10)

合計 ▲ 87

8

19年度（今回）のセグメント利益は、前回見通しに0億円に対し、▲87億円となった。

内訳は、

◆コスト：▲30億円

原料配合構成差によるコストアップ▲20億円、および炉修前倒し等による補修費増▲10億円。

◆数量・構成：▲60億円

新型コロナウイルス感染拡大を受け、以下の要因で数量減

- ・ 3月を中心としたお客様の稼働停止による当社の直接的な生産・出荷減
- ・ 経済減速に伴う生産活動水準の低下、土木・建設工事遅れ、在庫調整、市況下落等の間接影響
 - ・ 粗鋼量 2,700万t → 2,673万t (▲27万t)
 - ・ 出荷量 2,380万t → 2,347万t (▲33万t)

◆販価・原料：+50億円 (≒鋼材トンあたり：+200円)

原料炭価格下落および輸出価格の改善によるスプレッド好転。

◆棚卸資産評価差等：+10億円

◆その他：▲57億円

- ・ 海外Gr会社期末外貨換算差
- ・ 資産廃売却 等



セグメント利益 ▲1,700億円内訳

JFEスチール	2018年度 実績 (A)	2019年度 見通し (B)	2019年度 実績 (C)	(億円)	
				年度差異 2018年度 →2019年度 (C-A)	年度差異 見通し →実績 (C-B)
セグメント利益	1,613	0	▲87	▲1,700	▲87

■ コスト	+ 420	⇒	コスト削減+200、18年度一過性影響なし+220
■ 数量・構成	▲ 60		
■ 販価・原料	▲ 810		
■ 棚卸資産評価差等	▲ 670	⇒	棚卸資産評価差 ▲570 (+350→▲220) 原料キャリアオーバー影響 ▲60 (▲10→▲70) 為替換算差 ▲40 (+30→▲10)
■ 資材単価等	▲ 150	⇒	資材、物流、外注単価上昇等
■ その他	▲ 430	⇒	基盤整備推進に伴う償却費増、Gr会社等
合計	▲ 1,700		

19年度のセグメント利益は、18年度に対し、▲1,700億円の▲87億円となった。

内訳は、

◆**コスト：+420億円**

減産や台風の影響、補修費、原料配合によるコストアップ等はあるも投資効果の発現等により、+200億円のコスト削減となった。また、昨年度の操業トラブルによる一過性のコストアップの解消+220億円と合わせて年間+420億円のコスト削減となった。

◆**数量・構成：▲60億円**

昨年のトラブル影響の解消により数量差はプラスも、海外・国内共に品種構成が悪化。

- ・粗鋼量 2,631万t→2,673万t (+41万t)
- ・出荷量 2,378万t→2,347万t (▲31万t)

◆**販価・原料：▲810億円** (≒鋼材トンあたり：▲3,500円)

海外の鋼材市況下落と鉄鉱石価格の上昇によりスプレッド悪化。

◆**棚卸資産評価差等：▲670億円**

◆**資材単価等：▲150億円** (・資材▲50億円 ・物流費▲40億円 ・外注費▲50億円)

◆**その他：▲430億円**

- ・グループ会社収益の減少
- ・基盤整備推進に伴う償却費・廃却損の増加 等

JFEエンジニアリング 2019年度決算



(億円)

	2018年度 (実績) A	2019年度 (見通し) B	2019年度 (実績) C	増減 (対前年度) (C-A)	増減 (対見通し) (C-B)
受注高	4,828	4,500	4,130	▲698	▲370
売上収益	4,858	5,200	5,122	+264	▲78
セグメント利益	201	230	231	+30	+1

【主な増減要因(対見通し)】

受注高 ▲370 大型案件の出件時期変更他

【主な増減要因(対前年度)】

受注高 ▲698 大型案件の出件タイミング差他

売上収益 +264 前年度受注高拡大により増加

セグメント利益 +30 売上収益増により増加

JFE商事 2019年度決算



J F E 商事 2019年度決算

JFE

(億円)

	2018年度 (実績)	2019年度 (見通し)	2019年度 (実績)	増減 (対前年度)	増減 (対見通し)
	A	B	C	(C-A)	(C-B)
売上収益	11,258	10,900	10,841	▲417	▲59
セグメント利益	357	290	270	▲87	▲20

【主な増減要因(対見通し)】

受取配当金の時期ずれ、および外部環境悪化に伴う需要減等により減益

【主な増減要因(対前年度)】

米国における年間を通した鋼材市況の下落に加え、下期以降、米中貿易摩擦の長期化による日本を含めたグローバルベースでの需要減速ならびに鋼材市況低迷より減益。

配当について



- 当期の期末配当については、現下の損益状況を踏まえ、実施しない方針とさせていただきます。

中間配当：1株あたり20円

期末配当：実施しない方針

年間配当：1株あたり20円

- JFEホールディングスとJFEスチールの代表取締役社長、代表取締役副社長および執行役員の役員報酬の一部返上を実施しておりますが、更なる経営環境の悪化が見込まれることから、本年5月より返上率の拡大を実施いたします。

JFEグループ 2020年度 業績予想



20年度の連結業績予想については、特に鉄鋼事業において、新型コロナウイルス感染拡大の影響により今後の需要産業の動向が不透明であることから、現時点で合理的な予想の算定が困難であるため、未定としております。

新型コロナウイルス感染拡大の 影響とそれに伴う対応



新型コロナウイルス感染拡大に伴う当社の状況

JFE

従業員の安全と健康を守ることを最優先に以下対応を実施しております

□ 国内の状況

- JFEホールディングスならびに各事業会社は新型コロナウイルスに関する緊急事態宣言を踏まえ、2020年5月31日まで原則在宅勤務を実施
- 製鉄所、製造所、製作所の操業は継続し、生産活動・操業に直結する業務に従事し、出社が必要な社員について感染予防・感染拡大防止を徹底

□ 海外の状況：各国政府の要請に従った従業員の勤務体制・操業体制を整備

主要地域	稼働状況	備考
中国	稼働再開済	需要家の活動水準はバラつきあり
他アジア	鉄鋼事業はすべての事務所、主な合弁事業会社の稼働再開済	商社事業の一部のGr会社で各地域の非常事態宣言や都市封鎖を受け、部分操業・操業停止中
北米	メキシコ：NJSM*等稼働停止中 メキシコ以外：通常操業	NJSM：当局の要請に基づき稼働を停止しているが、本格的な営業生産前であり、デリバリーへの影響はない。

*NJSM：NUCOR-JFE STEEL MEXICO



JFE

□国内環境

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、**国内経済活動が大幅に収縮**
- 比較的堅調であった自動車分野で一部稼働を停止、また造船、建産機及び建築分野でも需要が一層弱くなっており、**底打ちの兆しが見えない**
- **施工中の工事中断や延期、受注時期の見直しや延期**など、エンジニアリング事業への影響拡大の懸念もあり

□海外環境

- 世界各地で**経済は急激に減速、鋼材需要は落ち込んでいる**
- 鋼材需給バランスの悪化により、海外マーケットの市況も下落しており、**足下のスプレッドは過去最低水準**
- 国内同様、エンジニアリング事業において**工事や受注の延期等**の懸念あり

この状況をJFEグループ発足以来の最大の危機と捉え、この難局を乗り切るために諸施策を検討・実施してまいります



鉄鋼事業の取り組み状況①（当面の操業方針）

◆当社の対応

足元の急激かつ大幅な需要減少への更なる対策として、効率的な生産体制での操業、及び従業員の雇用維持の観点から、以下の施策を実施することを決定。（4/15 リリース済）

1. 高炉の休止(改修)、バンキング*

・西日本製鉄所（倉敷地区）第4高炉

… 4月末に休止し高炉改修工事に着手

・西日本製鉄所（福山地区）第4高炉

… 6月末のバンキング実施に向け準備を開始

(*バンキング：送風を停止し、再稼働可能な状態で休止すること)

2. 一時休業の実施

5月から全社で一時休業を実施

今後も鉄鋼需要の動向を注視し、需要に見合った柔軟かつ迅速な対応を実施してまいります。



高炉 2 基の一時休止に加え、下記の収益改善対策も検討・実施してまいります。

1. 固定費削減を中心とした徹底したコスト削減

：補修費削減、緊急労務施策等を通じて
1,000億円規模のコスト削減を目指す

2. 更なる設備投資の見直し

：新規投資絞り込み、意思決定済投資の時期含めた見直し

3. 在庫の圧縮（鋼材・原料・資材）

：在庫基準の見直し等踏み込んだ対応実施

4. 資産売却

：政策保有株の原則全量売却に加え、
不動産含むあらゆる資産を対象に売却の検討、実施 等

22

コスト削減1,000億円規模の内訳は固定費、変動費で概ね半分ずつ。

- 固定費削減：補修費及び労務費施策等中心
- 変動費削減：19年度に稼働した福山地区の3Aコークス炉や3焼結炉の
大型設備投資効果の通年での効果発現とさらにプラスアルファで対策を実施



国内は、エネルギー自由化による関連需要やインフラ構築プロジェクトの堅調な推移を見込んでいるが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、受注済み工事の一部で中断等の影響が発生。

今後の新規受注や工事の中断・延期の影響の拡大が懸念される。

海外は、南アジアにおける鋼構造関連事業や、欧州の廃棄物発電関連需要の増加を見込んでいるが、国内同様、**施工中の工事の中断・延期、受注時期の見直し・延期が懸念**される。

施工体制の柔軟な変更や工事の進捗に合わせた最適な調達を実施するなど、迅速な対応により影響の最小化に努める



- 電動車および高効率変圧器用の電磁鋼板等の重点分野におけるサプライチェーンの強化は推進しているが、新型コロナウイルスの影響による世界経済の減速により、国内外の鉄鋼需要の減少が見込まれ、先行きは不透明な状況。
- 鉄鋼需要の減少に伴い原材料・資機材の販売減も懸念される。
- 海外各地域における感染症拡大や、ロックダウン等の感染拡大抑止施策により、物流の制約や鋼材加工センターの操業への影響等も懸念。

各地域の感染状況や行政、医療、物資調達、航空運航等の状況に応じて、従業員の安全の確保を最優先に適切かつ迅速な対策を講じる



財務健全性維持に向けた取り組み

1. 資産圧縮によるキャッシュフロー創出

＜政策保有株式の売却・棚卸資産の圧縮：19～20年度末までに1,500億円程度＞

19年度は**350億円程度**実施。政策保有株式は原則として保有しない方針のもと、売却を順次推進中。

2. 鉄鋼事業の設備投資の圧縮も推進中

＜6次中期計画の国内設備投資1兆円（意思決定ベース）に対し、1,000億円を圧縮＞

＜新型コロナウイルス感染拡大影響を受けた対策＞

- **更なる設備投資の見直し**
：新規投資絞り込み、意思決定済投資の時期含めた見直し
- **在庫の圧縮（鋼材・原料・資材）**
：在庫基準の見直し等踏み込んだ対応実施
- **資産売却**：政策保有株の原則全量売却に加え、不動産含むあらゆる資産を対象に売却の検討、実施
- **資金調達**：複数の金融機関との間で7,000億円程度のコミットメントラインを設定しており、十分な資金の流動性を確保済

中長期的な成長に向けた 取り組みの状況



企業の持続的な成長を目指した対応

JFE

■ 足下の事業環境

- 米中貿易摩擦による製造業を中心とした鉄鋼需要の低迷
- 中国の粗鋼生産拡大に伴う原料価格の高止まり
- 副原料・資材費・物流費などの物価上昇

■ 中長期的見込み

国内

人口減少などを背景とした需要の減少

海外

新興国における鉄鋼生産能力の拡大、
中国の内需減少に伴う輸出の増加などによりますます競争が激化

内部環境

製造基盤整備、製造実力の強靱化のために、
今後も長期間にわたり多額の老朽更新投資が必要

6次中期経営計画策定時に想定していたよりも早期にこれらのリスクが顕在化

鉄鋼事業を中心に構造的且つ急激な環境の変化のため、

- 6次中期計画で掲げた目標の達成は困難であるが、各施策については今後も着実に実行していく
- 鉄鋼事業の国内最適生産体制の構築に向けた構造改革の実施を決定



競争力強化に向けた「選択と集中」による製品製造体制の見直し

- 国内の生産体制を**高炉8基→7基体制へ**
 …粗鋼生産能力：約▲400万t（約▲13%）削減
- 19年度末に京浜地区の**冷延・表面処理鋼板の一部製造設備**を休止
- 22年度を目途に千葉地区のすべての**缶用鋼板製造設備**を休止し、缶用鋼板の製造を福山地区に完全集約を決定
- 23年度を目途に、東日本製鉄所**京浜地区の上工程**（製銑、製鋼）および**熱延設備**を休止し、東日本製鉄所の薄板生産を一部品種を除き千葉地区に集約（23年を目途に千葉第6高炉改修）

<地区ごとの主な休止設備>

京浜

高炉、シャフト炉、焼結、コークス炉、転炉、電気炉、連続鋳造機、熱延（除く酸洗・スキップス）、冷延表面処理設備の一部

千葉

缶用鋼板製造設備

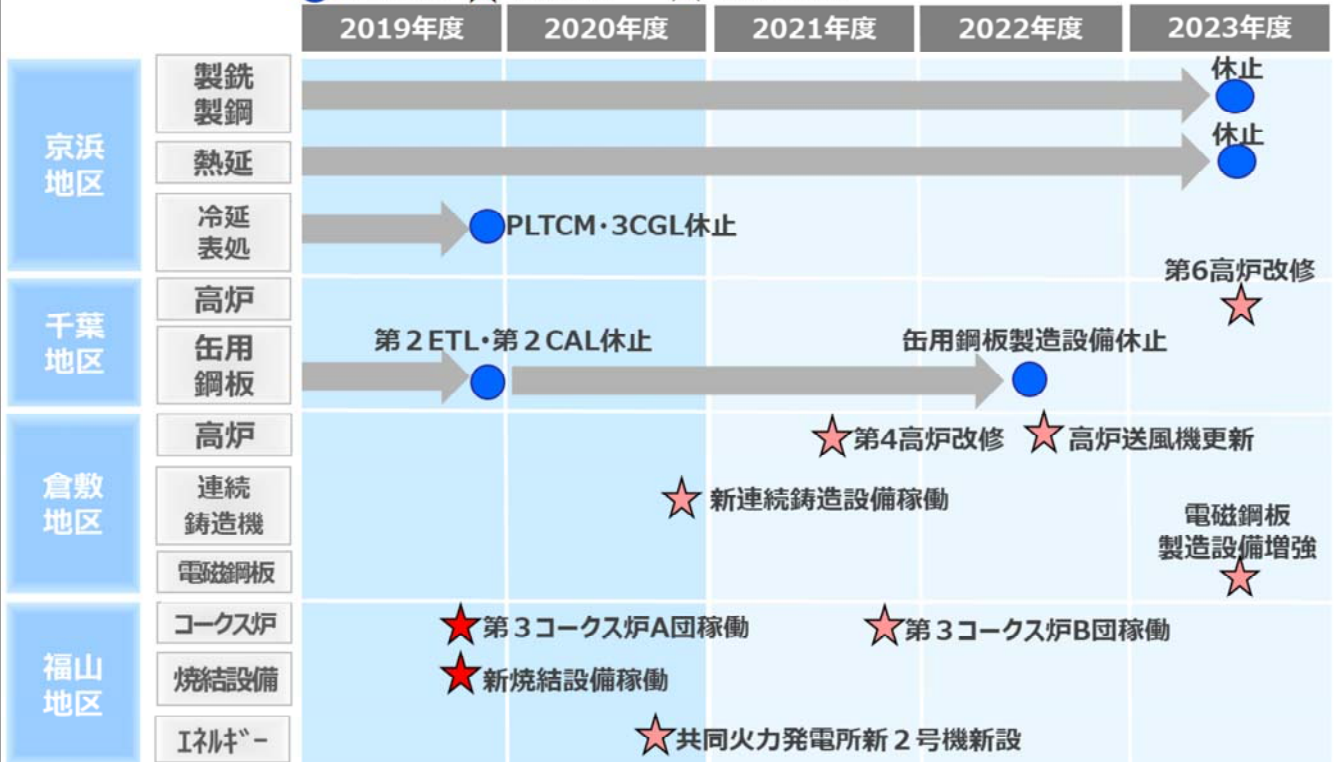
- 23年度迄に当社基幹製鉄所である西日本製鉄所の**上工程設備**や**電磁鋼板の製造設備を増強**



鉄鋼事業の国内の操業方針 (構造改革、製造実力強靱化施策)

JFE

● 休止済/予定 ★ 稼働/実行済 ★ 稼働/実行予定





鉄鋼事業の海外事業の取り組み状況

JFE

● 実行済み ◆ 実行予定（推進中）

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
総括			● 「海外事業推進センター」設置			
自動車		● [中国・鉄粉]BJCMX 営業生産開始 ● [中国・特殊鋼棒線]BJSS 合併契約調印	● [メキシコ・自動車用鋼板]NJSM 生産開始 ◆ [中国・電池材料]負極材事業 生産開始予定			
インフラ 建材		 JMM工場外観 (ティラワ工業団地内)	カラー鋼板操業 ●◆ [ミャンマー・建材用薄板]JMM営業生産開始予定			
エネルギー		● [UAE・大径溶接鋼管]AGPC 営業生産開始				
海外 鉄源 他	● [バトナム] FHS第2高炉火入れ	● [豪州・原料炭]バイヤウエン・コール出荷開始		◆ [印] JSWドルビ製鉄所拡張完工		

・ BJCMX : 上海宝武杰富意清潔鉄粉有限公司
 ・ JMM : JFE MERANTI MYANMAR Co., Ltd.

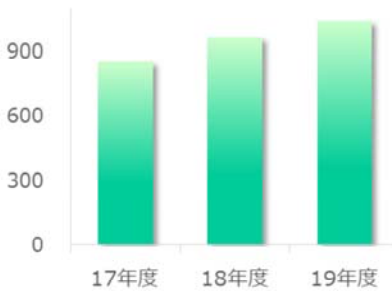
・ BJSS : 宝武特鋼傑富意有限公司
 ・ NJSM : NUCOR-JFE STEEL MEXICO

・ AGPC: AL GHARBIA PIPE COMPANY 30

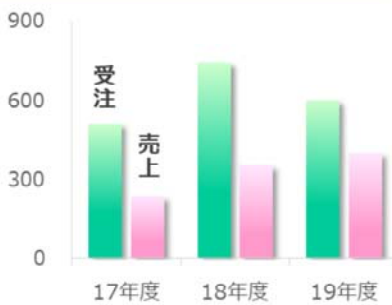


運営型事業の拡大と海外事業の収益化による企業体質強化を推進

運営型事業の売上高（億円）



海外事業の受注・売上高（億円）



主な取り組みの進捗状況

運営型事業の拡大

リサイクル・電力事業を中心に事業を拡大

- 首都圏最大リサイクルカンパニー J&T環境を設立
- 官民連携による電力事業の推進 [熊本、新潟 他]

海外事業の収益化

SBG社*の受注拡大等で海外売上高が拡大

- ベルギー バイオマス発電プラント [受注額 約100億円]
- スコットランド 廃棄物発電プラント [受注額 約40億円]
- ドイツ廃熱回収ボイラ ヘキスト工業団地 [受注額 約100億円]
*スタンダードケッセル・パウムガルテ社

新商品開発・事業領域拡大

先進技術活用や、新規・既存の事業領域拡大を推進

- ごみ焼却炉の完全自動運転を実現 商品化を推進中
- AnyTech社の全株式取得 世界初水質判定AIの活用
- 三井E&Sプラントエンジニアリングの株式取得 (JFEプロジェクトワンとして新たにスタート)



商社事業の取り組み状況

JFE

安定的な収益基盤確立とグローバル地域戦略強化に向けた取り組みを推進

主な取り組みの進捗状況

米州	<ul style="list-style-type: none"> ■ カナダ変圧器用コア製造等電磁鋼板加工会社Cogent社の全株式取得 ■ メキシコ自動車用等の鋼材加工センター JSSB社を設立 ■ 米国JFE商事HD設立 ~北米事業の一元的企画機能を構築~ 	足元固めと 次の成長に向けた 攻めの両立に 取り組む
中国	<ul style="list-style-type: none"> ■ モーターコア製造会社 浙江ブルジョア社の一部株式を取得 ~北米に続き仏ブルジョア社とのアライアンス関係を構築・拡大~ 	
アセ アン	<ul style="list-style-type: none"> ■ タイ モーター部品製造会社 I.M.E (Thailand)社の一部株式取得 	グローバル4極を 主軸にSCMを強化 安定的な収益基盤 を構築
日本	<ul style="list-style-type: none"> ■ グループ建材事業の体制強化 JFE商事鉄鋼建材とJFE商事薄板建材の合併 ■ 引抜鋼管および精密部品製造の中部伸管工業（株）の設立 鋼管、精密部品分野を強化 ■ RPA全社展開、グループ会社基幹システム刷新などのIT積極活用 	



2019年度の主な取り組み

- TCFDへの賛同表明と、シナリオ分析をはじめとするTCFDの提言に沿った情報開示の実施 E
- 女性管理職社員数目標の前倒し達成
(14年8月時点から 3倍増を達成→25年目標 5倍増へ) S
- 初の女性監査役の就任 G
- 重要課題に対する取り組み実績を踏まえたKPIの見直し E S G
- 情報開示の拡充と社外評価の向上 など E S G

取り組みに対する社外の評価

JFEグループレポート2019 GPIFの運用機関が選ぶ
「優れた統合報告書」と「改善度の高い統合報告書」に選定

JFEグループCSR報告書2019
 環境省及び一般財団法人地球・人間環境フォーラム主催
「第23回環境コミュニケーション大賞優良賞」を受賞





2020年度の主な取り組み

- **ゼロカーボン・スチール実現に向けた取り組みの推進** (革新的製鉄プロセス フェロコークスの開発推進等) **E**
- **再生可能エネルギー利用拡大に向けた取り組みの推進** (廃棄物・バイオマス・地熱・太陽光発電事業の拡大等) **E**
- **リサイクルの推進・循環型社会実現への貢献** (次ページ参照) **E**
- **新型コロナウイルス感染拡大への対応** (従業員の安全・健康確保) **S**
- **取締役会における議論のさらなる充実** (ESG、中長期投資戦略等) **G**
- **初の女性取締役の就任** (20年6月予定) など **G**

持続的な企業価値の向上と事業を通じた社会課題の解決に貢献



リサイクル・循環型社会の実現、CO₂排出削減に向けた取り組み

2020年4月20日リリース

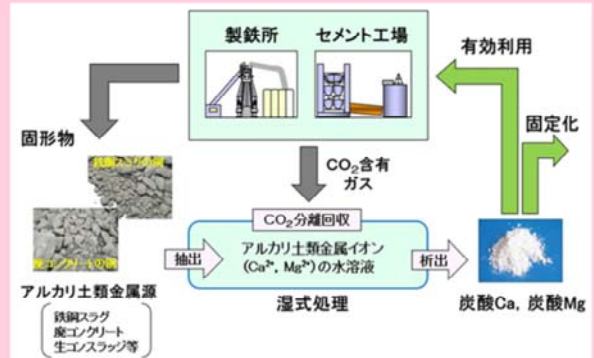
鉄鋼スラグや廃コンクリートを活用したCO₂の炭酸塩固定技術に関する取り組み

JFEスチール(株)、太平洋セメント(株)、公益財団法人地球環境産業技術研究機構 (RITE) が共同で研究会を設置⇒技術の実用化を目指す

RITEの炭酸塩固定技術に関する高度な研究開発力



鉄鋼、セメント業界をリードする2社の技術力や幅広い見識



鉄鋼スラグや廃コンクリートを活用し、工場等から発生するCO₂を炭酸塩として回収、炭酸塩を有効活用

2020年5月7日リリース

J & T 環境(株)と協栄産業(株)の合併会社の設立 ~ボトル to ボトル シフトに貢献する

国内最大のペットボトルリサイクルレジンを製造工場新設~

拡大する国内リサイクルペットボトル生産を原料供給面から支え、CO₂排出量の削減や天然資源の使用量抑制に貢献

合併会社の概要
 商号：協栄 J & T 環境(株)
 事業：リサイクルペット原料の製造
 出資比率：J & T 環境 51%
 協栄産業 49%
 生産能力：4~5万 t/年
 稼働時期：21年9月(予定)
 投資額：約100億円

參考資料



2019年度 連結キャッシュフロー

(億円)

原資		使途	
事業利益	378	税・配当・支払利息	783
減価償却費および償却費	2,315	設備投資・投融資	3,881
資産圧縮 ※1	358		
借入・社債 ※2	1,847	運転収支他	234

※1 政策保有株式の売却、棚卸資産圧縮等

※2 会計基準の変更によるリース債務の増加 1,057億円は外数



主な財務関連データ

JFE
【日本基準】

年度	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18
【主要財務指標】(億円、%、倍)							
経常利益	522	1,736	2,310	642	847	2,163	2,211
EBITDA ※1	2,606	3,689	4,215	2,544	2,799	3,888	4,059
ROS ※2	1.6%	4.7%	6.0%	1.9%	2.6%	5.9%	5.6%
ROE ※3	2.7%	6.3%	7.7%	1.8%	3.7%	7.6%	8.3%
ROA ※4	1.6%	4.5%	5.5%	1.7%	2.3%	5.2%	5.1%
借入金・社債等残高(期末)	15,963	15,340	15,017	13,793	13,754	13,309	14,499
Debt/EBITDA倍率 ※5	6.1倍	4.2倍	3.6倍	5.4倍	4.9倍	3.4倍	3.6倍
D/Eレシオ ※6	76.9%	67.9%	59.0%	56.9%	51.4%	58.1%	62.0%
【1株当たり情報】(円/株、%)							
親会社株主に帰属する当期純利益	71.2	177.4	241.6	58.4	117.8	250.8	285.0
配当金	20	40	60	30	30	80	95
配当性向	28.1%	22.5%	24.8%	51.4%	25.5%	31.9%	33.3%

【日本基準】

- ※1 EBITDA: 経常利益+支払利息+減価償却費
- ※2 ROS: 経常利益/売上高
- ※3 ROE: 親会社株主に帰属する当期純利益/自己資本
- ※4 ROA: (経常利益+支払利息)/総資産
- ※5 Debt/EBITDA倍率: 借入金・社債等残高/EBITDA
- ※6 D/Eレシオ: 借入金・社債等残高/自己資本
但し、格付け評価上の資本性を持つ負債について、格付機関の評価により資本に算入

【IFRS】

年度	'18	'19
【主要財務指標】(億円、%、倍)		
事業利益	2,320	378
EBITDA ※1	4,282	2,694
ROS ※2	6.0%	1.0%
ROE ※3	8.6%	▲11.1%
ROA ※4	5.0%	0.8%
有利子負債残高(期末)	15,238	18,143
Debt/EBITDA倍率 ※5	3.6倍	6.7倍
D/Eレシオ ※6	68.2%	96.4%
【1株当たり情報】(円/株、%)		
親会社の所有者に帰属する当期利益	283.8	▲343.4
配当金	95	20
配当性向	33.5%	N/A

【IFRS】

- ※1 EBITDA: 事業利益+減価償却費及び償却費
- ※2 ROS: 事業利益/売上収益
- ※3 ROE: 親会社の所有者に帰属する当期利益/親会社の所有者に帰属する持分
- ※4 ROA: 事業利益/資産合計
- ※5 Debt/EBITDA倍率: 有利子負債残高/EBITDA
- ※6 D/Eレシオ: 有利子負債残高/親会社の所有者に帰属する持分
但し、格付け評価上の資本性を持つ負債について、格付機関の評価により資本に算入



JFEスチール	2019年度					増減 10-12月 →1-3月
	上期	10-12月		下期	年度	
		10-12月	1-3月			
セグメント利益	177	▲63	▲201	▲264	▲87	▲138
■ コスト		+ 70				
■ 数量・構成		+ 40				
■ 販価・原料		+ 60				
■ 棚卸資産評価差等		+ 40				⇒ 棚卸資産評価差 +60 (▲110→▲50) 原料キャリーオーバー影響 ±0 (▲60→▲60) 為替換算差 ▲20 (+20→±0)
■ その他		▲ 348				⇒ 廃却損増、Gr会社収益減等
合計		▲ 138				

19-4Qのセグメント利益は、19-3Qに対し、▲138億円の▲201億円となった。

内訳は、

◆コスト：+70億円

4Qに原料配合構成差（▲20億円）や炉修前倒し（▲10億円）によるコスト増はあるも、西日本製鉄所の上工程をはじめとした投資効果の発現、3Qの台風影響、減産影響の戻り等により、+70億円のコストダウンとなった。

◆数量・構成：+40億円

海外鋼材市況の持ち直しを受け、4Qに生産量・出荷量回復。

- ・ 粗鋼量 624万t→670万t（+46万t）
- ・ 出荷量 559万t→609万t（+51万t）

◆販価・原料：+60億円（≒鋼材トンあたり：+1,000円）

鉄鉱石価格の下落や海外鋼材市況の一部持ち直しにより、輸出市況分野でスプレッド回復。

◆棚卸資産評価差等：+40億円

◆その他：▲348億円

- ・ 資産廃売却増
- ・ グループ会社収益の減少 等



(参考) 2019年度上期⇒下期セグメント利益 ▲441億円内訳

JFE

JFEスチール	2019年度			増減 2019上→下
	上期	下期	年度	
セグメント利益	177	▲264	▲87	▲441

■ コスト + 60

■ 数量・構成 ▲ 160

■ 販価・原料 + 10

■ 棚卸資産評価差等 ▲ 220 ⇨

■ その他 ▲ 131 ⇨

棚卸資産評価差	▲100 (▲60→▲160)
原料キャリアオーバー影響	▲170 (+50→▲120)
為替換算差	+ 50 (▲30→+20)

基盤整備推進に伴う償却費増 等

合計 ▲ 441

40

19年度下期のセグメント利益は、19年度上期に対し、▲441億円の▲264億円となった。

内訳は、

◆コスト：+60億円

台風影響や急激な減産による影響▲50億円や、期末の原料配合構成差、補修前倒しなどによるコストアップが▲30億円あるも、西日本の上工程をはじめとした投資効果発現等により、+60億円のコストダウンとなった

◆数量・構成：▲160億円

粗鋼生産は国内外の需要減と海外鋼材市況低迷を受け生産調整を行った影響や、3月以降、新型コロナウイルスの影響により国内外ともに需要が減速したことにより数量減となった。

- ・ 粗鋼量 1,379万t → 1,294万t (▲85万t)
- ・ 出荷量 1,180万t → 1,168万t (▲12万t)

◆販価・原料：+10億円 (≒鋼材トンあたり：+100円)

海外市況の悪化に加え、鉄鉱石も高止まりしたが、原料炭価格が大幅に下落しスプレッドは好転。

◆棚卸資産評価差等：▲220億円

◆その他：▲131億円

- ・ 基盤整備推進に伴う償却費
- ・ 廃却損の増加 等



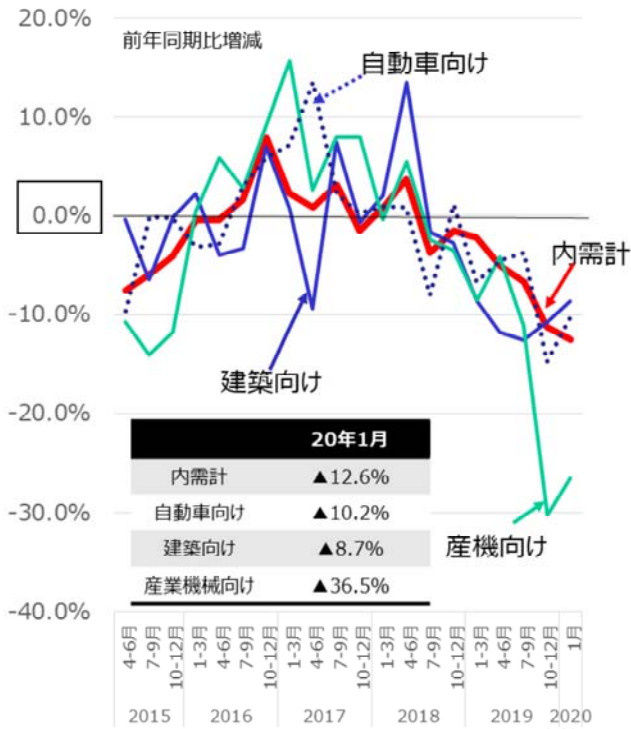
分野	2018年度 実績	2019年度 実績	増減	2019年度 主な受注内容 ★…第4四半期 新規・追加受注案件
環境	2,126	1,871	▲255	国内浄水場更新工事 国内下水処理場消化ガス発電事業 [千葉] ★ 国内廃棄物処理施設 基幹改良工事[静岡、川崎、茨城] 海外廃棄物発電プラント 新設工事[イギリス] 海外廃熱回収プラント 新設工事 [ドイツ]
エネルギー	1,328	1,098	▲230	地熱発電所設備更新工事 ガス幹線パイプライン 熱量調整設備建設工事 BOG処理対策関連設備工事 (袖ヶ浦 [千葉]) ★ パイプライン受ガス設備工事 (姉崎 [千葉]) ★
社会 インフラ他	1,374	1,161	▲213	国内橋梁改築工事 (首都高速川口線、中央道園原橋 [岐阜] ★) 海外橋梁新設工事 [バングラデシュ] ★
合計	4,828	4,130	▲698	



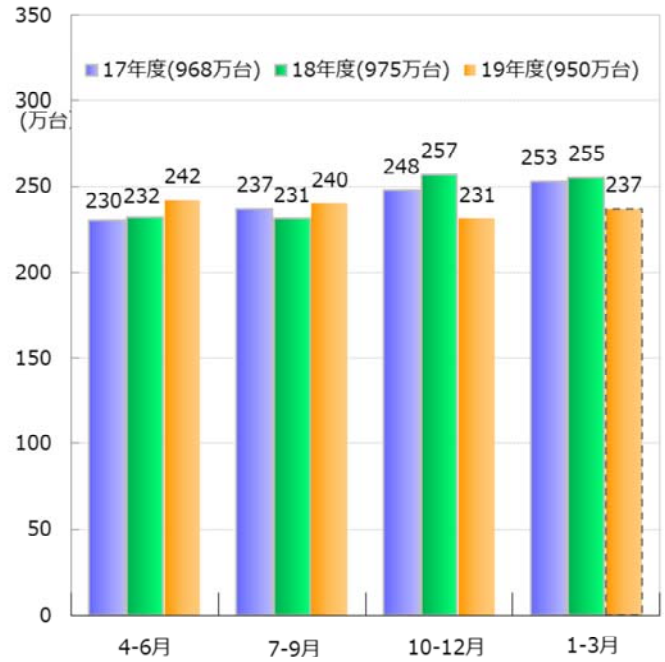
JFE

足下の事業環境認識 (国内)

【普通鋼鋼材受注推移】



【自動車生産台数見通し】

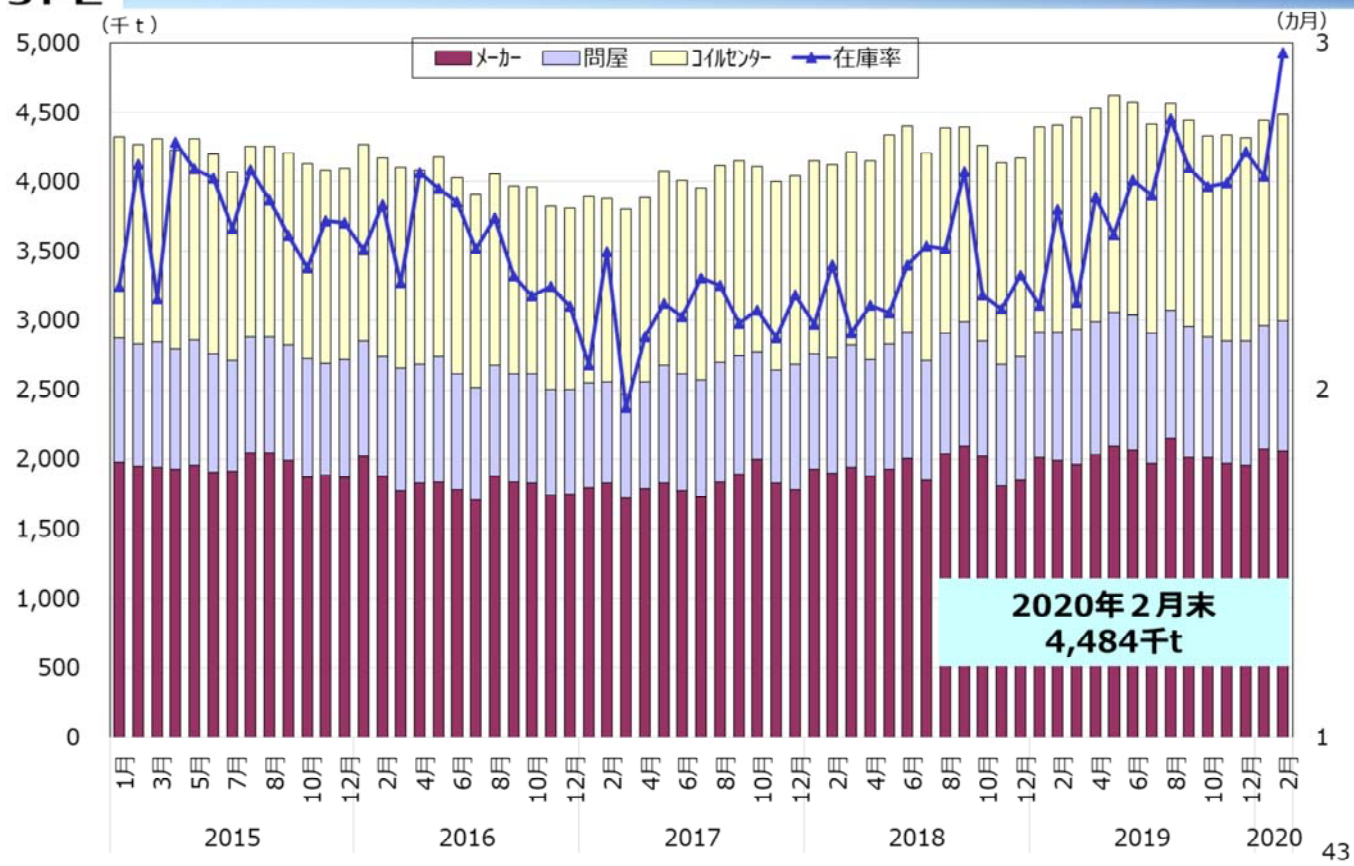




国内販売環境

薄板 3 品在庫

JFE



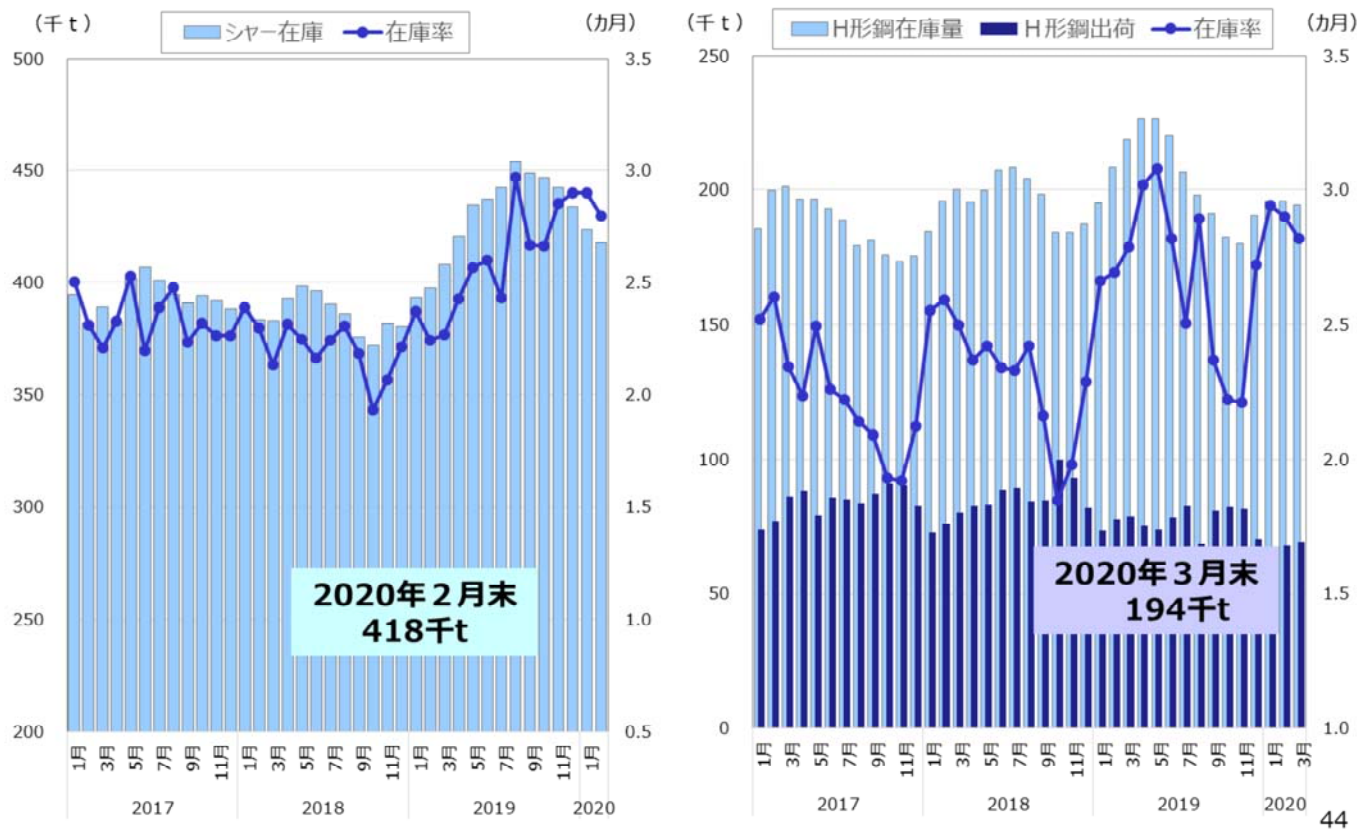
◆ 2月末の薄板 3 品在庫 4 4 8 . 4 万トン (速報)

前月比 + 4 . 0 万トン

前年比 + 7 . 6 万トン

400万 t 超えの状況が継続。

◆ 2月の国内向け鋼材出荷量も前月比 1 3 % 減の 338 万トンとなり、新型コロナウイルス感染拡大による需要減速が顕在化している。自動車の工場が停止していることなどもあり、今後も在庫増加が懸念される。



【厚板シャー】（出典：厚板シャーリング工業組合）

2月末の厚板シャー在庫は41.8万t [前月比-0.5万 t、前年同月比+2.0万 t]となった。

昨年8月末時点をピークに、わずかながらも減少傾向をたどっている。建産機・建築向けの荷動き鈍化が続いている。出荷量の低迷が続く中で、厚板シャー各社が仕入れを抑制していることが在庫低減の背景にある。

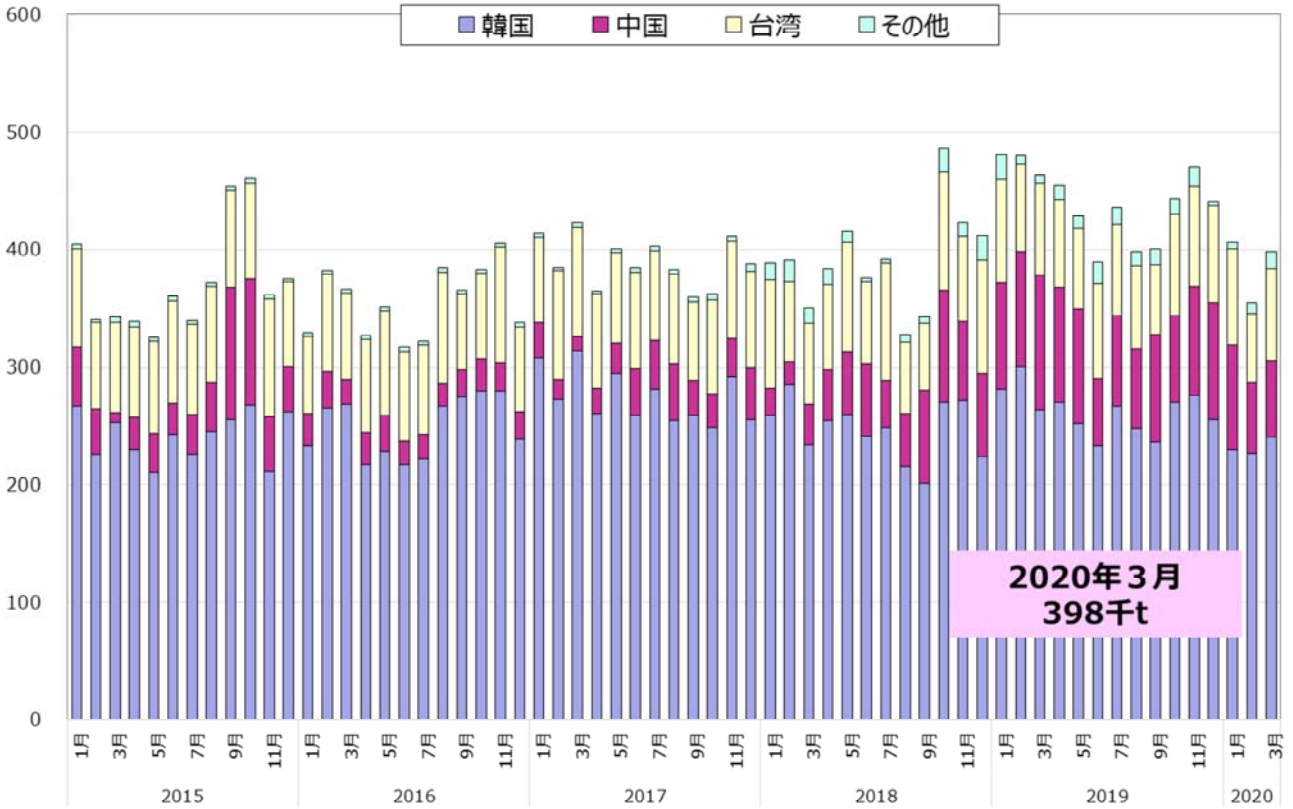
【H形鋼】（出典：ときわ会）

3月末のH形鋼在庫は19.4万 t [前月比-0.1万 t、前年同月比-2.5万 t]となった。

在庫量は2か月連続で減少。流通の仕入れ抑制姿勢が継続し、前月とほぼ同水準の在庫量で推移した。今後の需要動向は新型コロナウイルスの感染拡大、東京五輪延期などにより先行き不透明感が強く、需要変動を冷静に見極める必要がある。



JFE
(千t)



3月の普通鋼鋼材輸入量は39.8万t [前月比+4.4万t 前年同月比-6.5万 t]

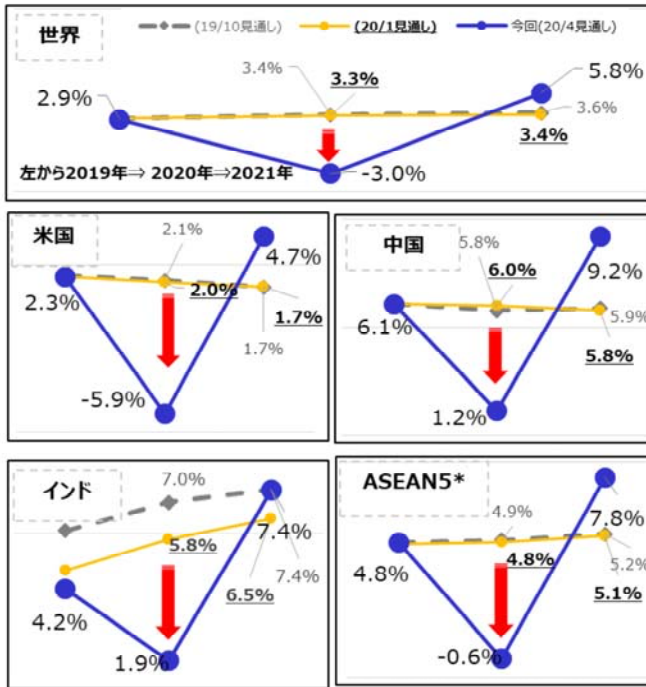
新型コロナウイルス影響による各国の鋼材需要停滞を受け、輸入材の価格水準は軟化し、一部の分野では国内材との値差が拡大傾向にある。今後一層の注意を払う。



足下の事業環境認識 (海外)

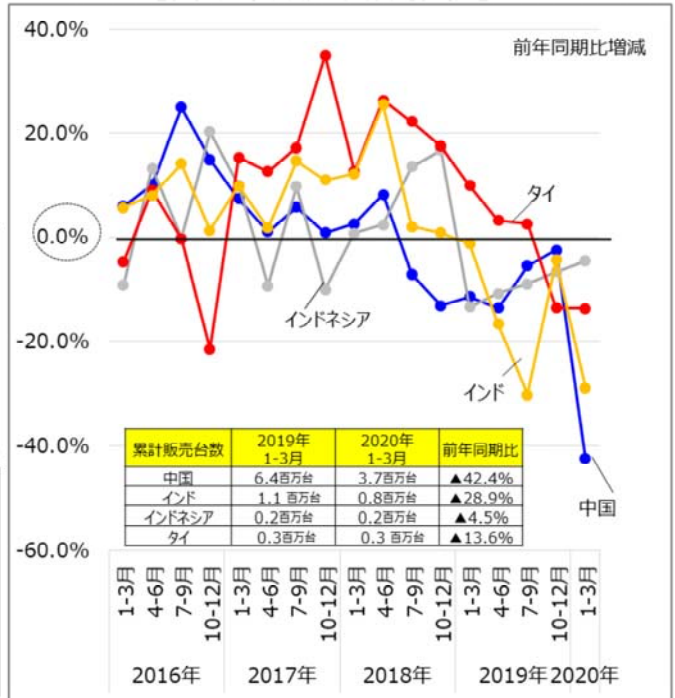
JFE

【19~21年暦年実質GDP成長率見通し】



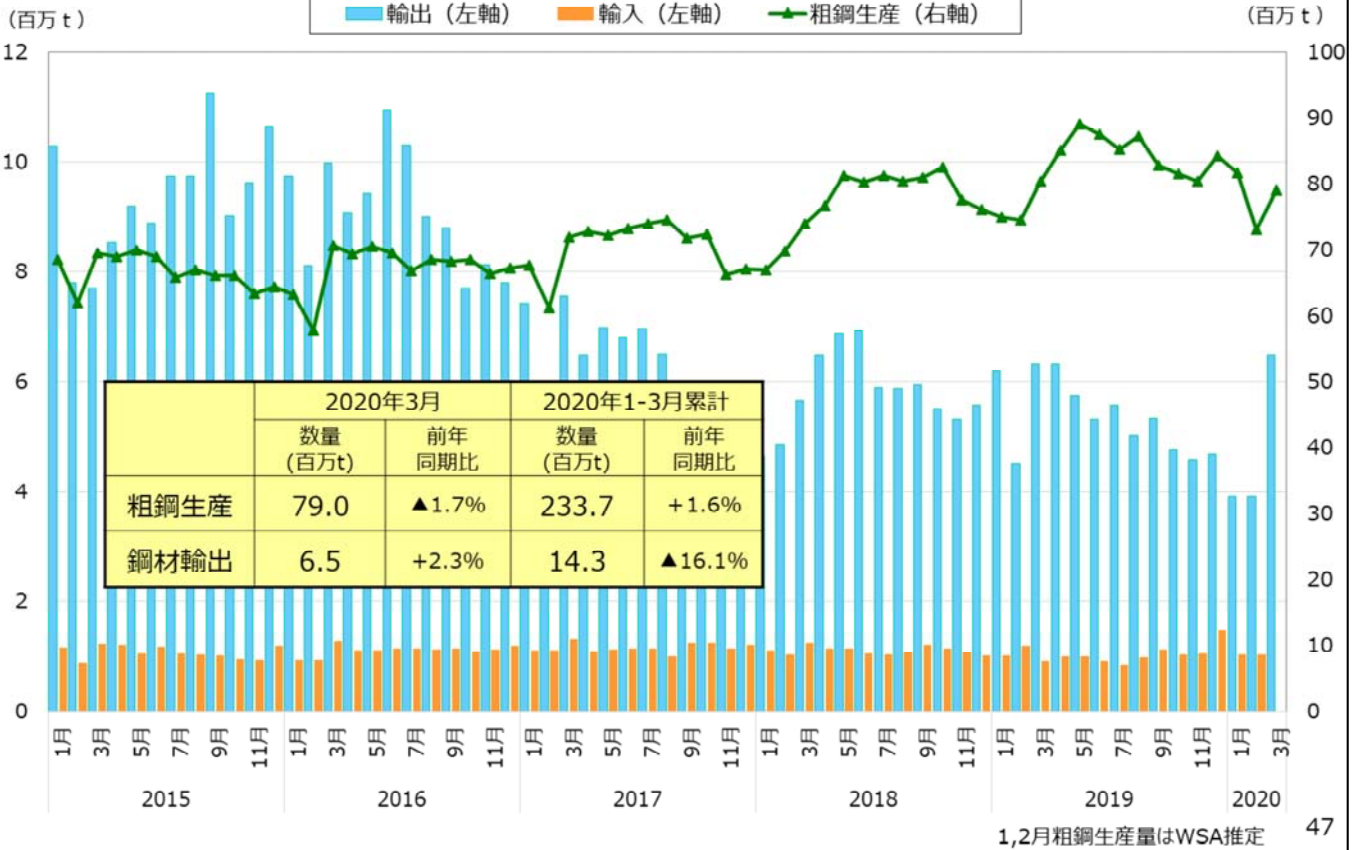
出典：IMF World Economic Outlook Update 19/10/15公表・20/1/20公表・20/4/14公表
 *ASEAN5：タイ・ラオス・インドネシア・マレーシア・シンガポール

【自動車販売台数推移】





JFE



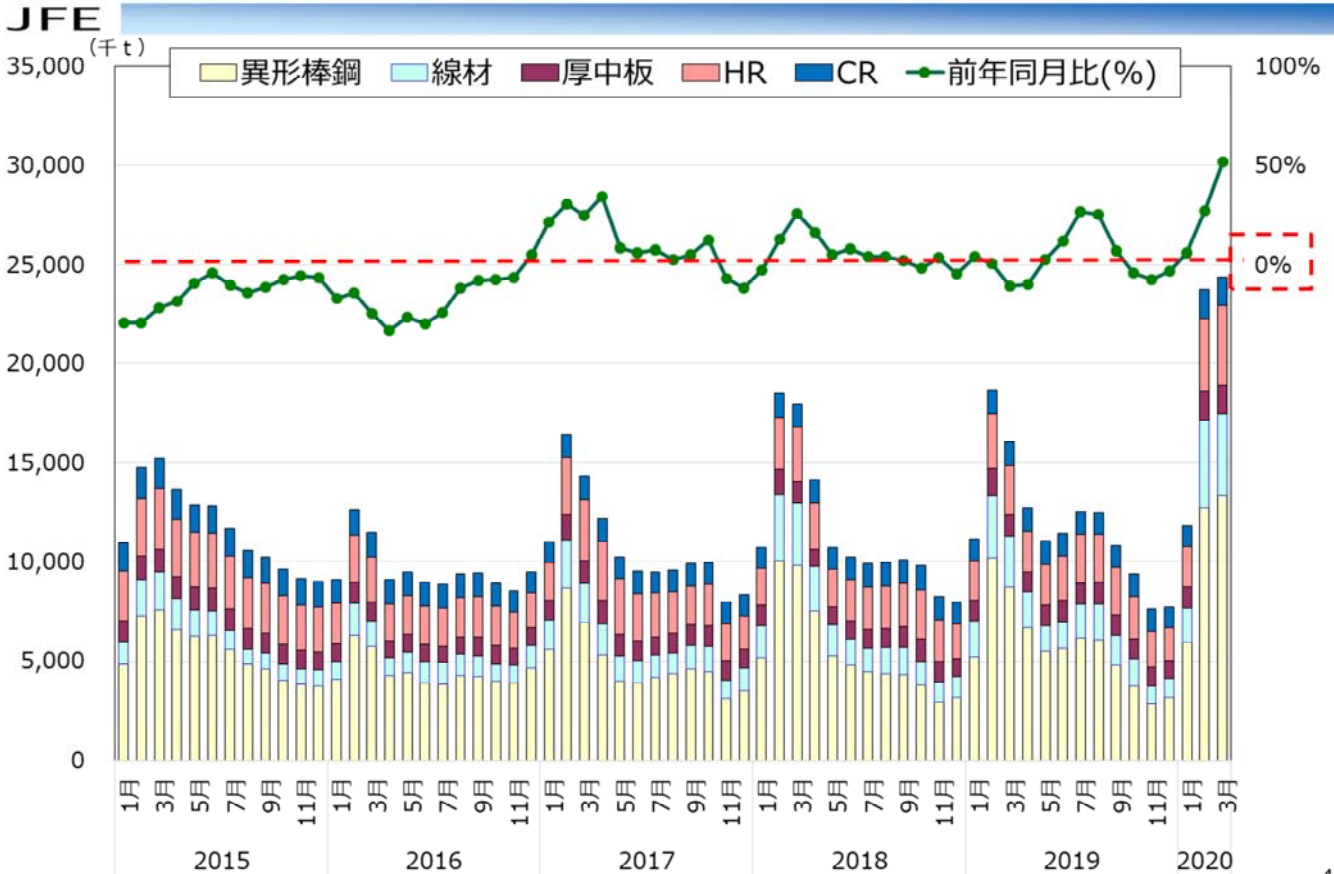
20年3月の中国粗鋼生産は、79.0百万t（前月比+5.9百万t、前年同月比▲1.4百万t）となった。日当たり粗鋼生産量は、255万tと、対1～2月平均（258万t）からは▲3万tの減となった。春節影響、新型コロナウイルス感染拡大防止のための都市封鎖影響含めやや減少傾向ではあるものの、小幅な減少にとどまった。

20年3月の中国鋼材輸出は、6.5百万t（前月比+2.6百万t、前年同月比▲0.2百万t）。2月までの前年同月比減少トレンドから増加に転じた、新型コロナウイルス影響による内需減もあり、引き続き注視が必要。



海外販売環境

中国品種別在庫数量

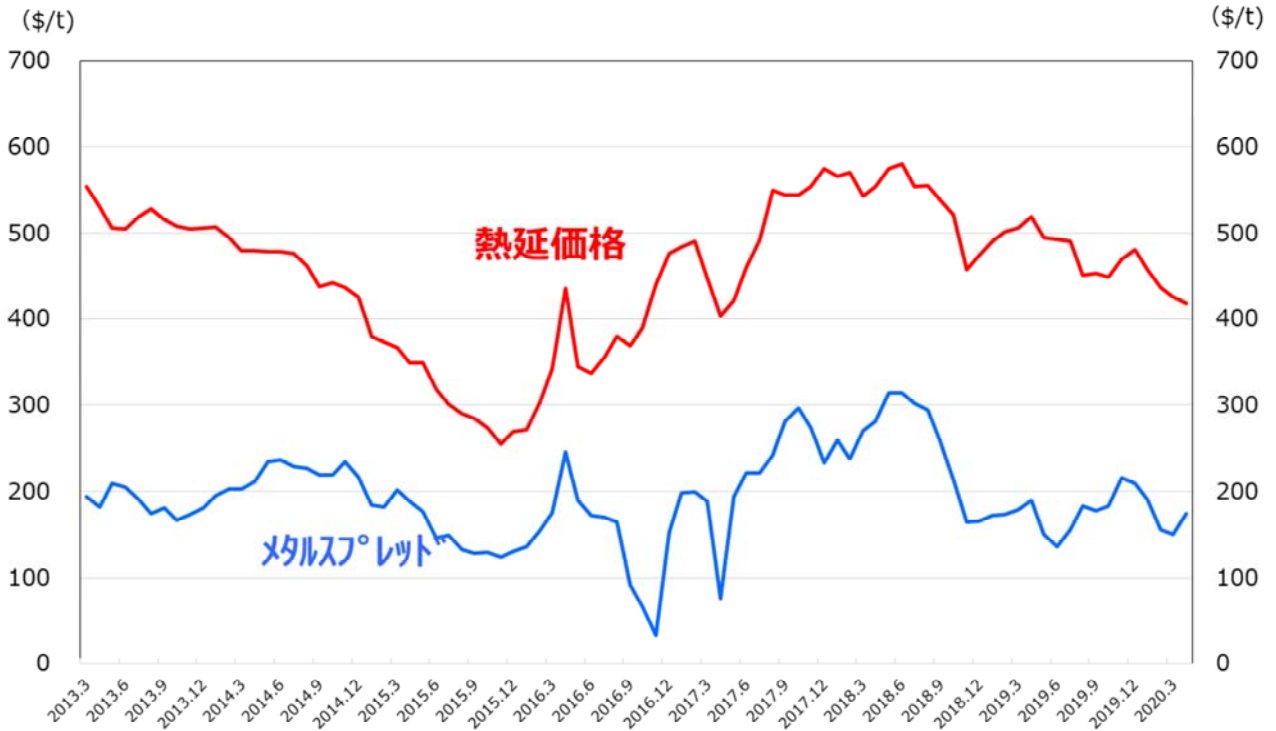


20年3月末の中国国内市中外在庫は、2,437万 t（前月比+2.5%、前年同月比+52.1%）となった。

春節による季節パターンに加え、新型コロナウイルスの感染拡大影響で需要と物流が停滞し、市中外在庫、製鉄所在庫ともに3月末にかけて増加傾向にある。



JFE



メタルスプレッド = 熱延価格 - 主原料コスト

※熱延価格：中国21都市平均価格、主原料コスト：粉鉱石、強粘炭国際スポット市況ベース

19年度上期の中国国内の熱延価格ベースでのメタルスプレッドは、熱延価格の軟化と鉄鉱石価格の高騰により、一時\$150/tを切る水準まで下落したが、下期に入り、主原料価格が下落したことで回復。11月以降、鋼材市況は反転基調にあり、メタルスプレッドは\$200/t 前後で推移していた。

年明け1月半ばより新型コロナウイルスの感染拡大を受け、中国経済活動が停止したことにより熱延価格が下落し、一時メタルスプレッドは\$150/t近辺まで下落した。その後、原料価格についても鉄鋼業の活動水準の低下に伴い原料炭価格が下落。20年3月末にかけてはスプレッドは若干持ち直してはいるものの、鋼材市況は引き続き下落基調にある。

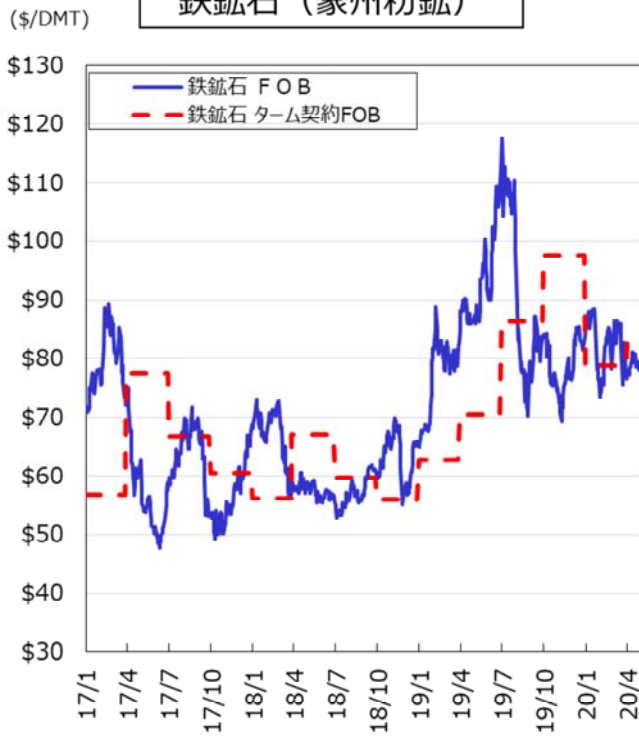


原料

主原料市況

JFE

鉄鉱石 (豪州粉鉱)



原料炭 (豪州強粘炭)



原料炭の17年4-6月期以降ターム契約FOBは、インデックス平均を記載
 (4-6月期：3-5月平均、7-9月期：6-8月平均、
 10-12月期：9-11月平均、1-3月期：12-2月平均)

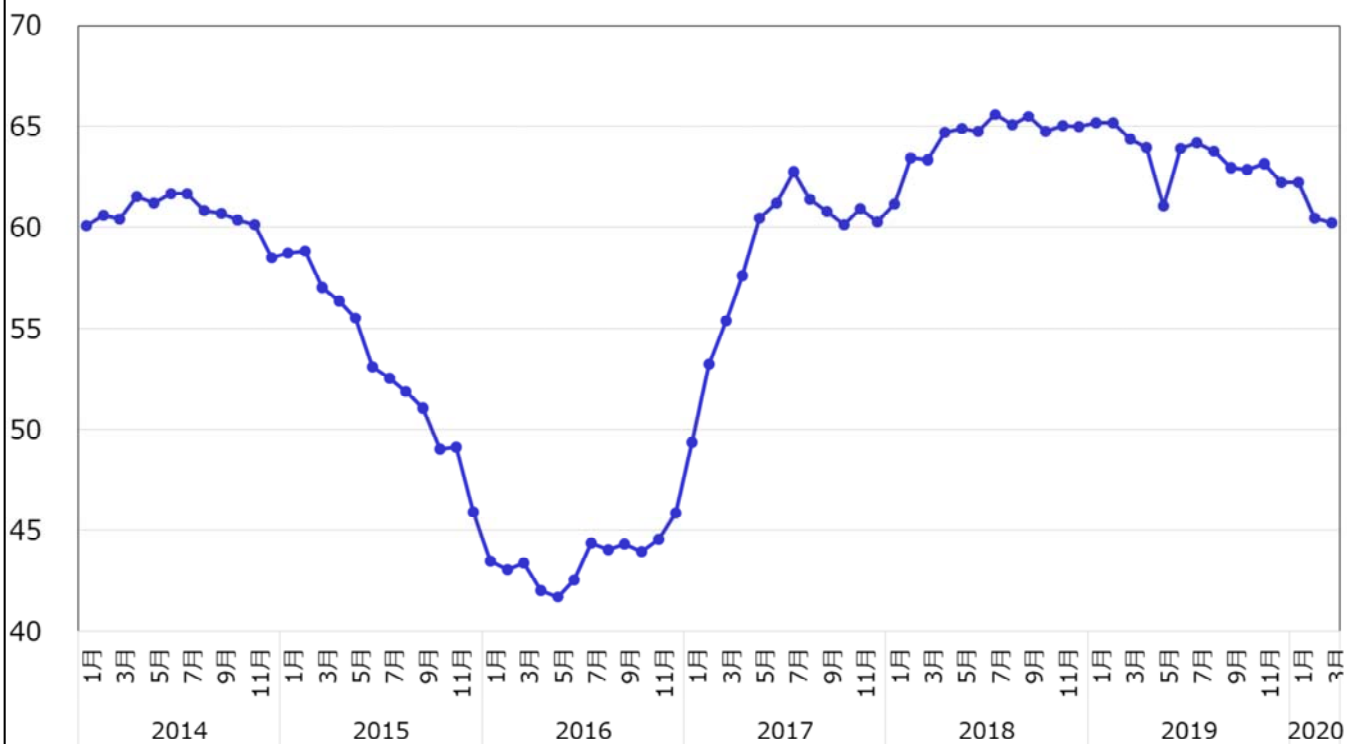


国内販売環境

輸入鋼材価格

JFE

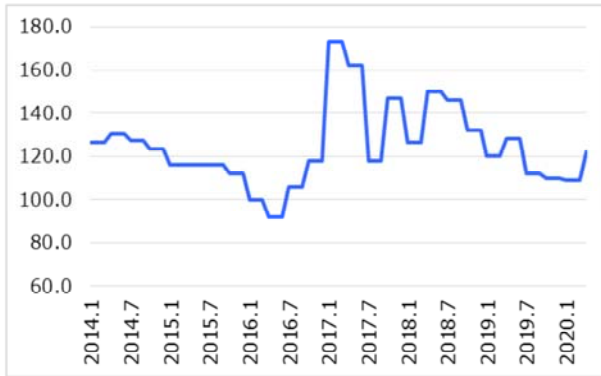
(千円/t)



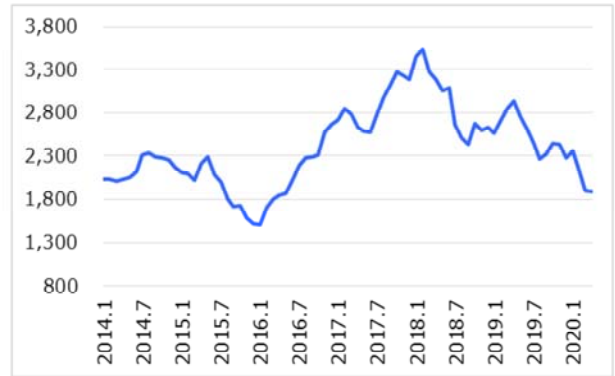
日本鉄鋼連盟データより作成 (韓国から輸入の熱延広幅帯鋼)



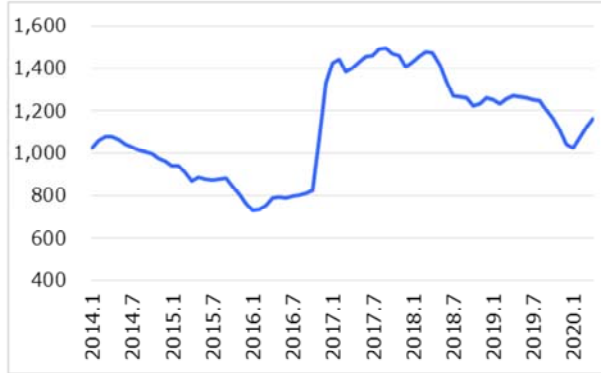
(φ/lb) フェロクロム



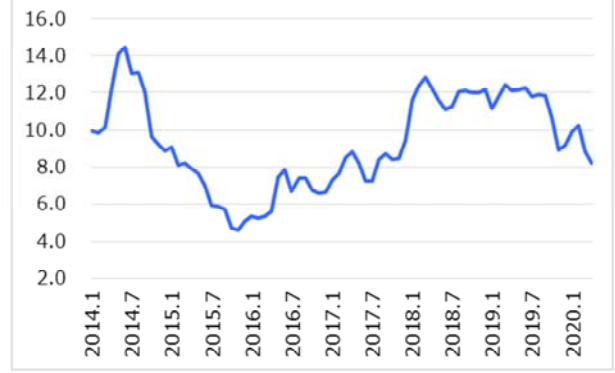
(US\$/t) 亜鉛



(US\$/t) フェロマンガ



(US\$/lb) モリブデン

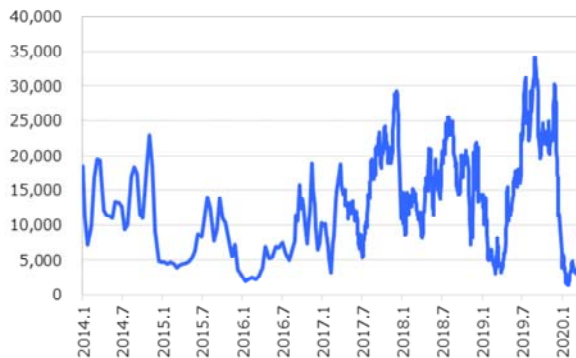




(円/t) スクラップ市況



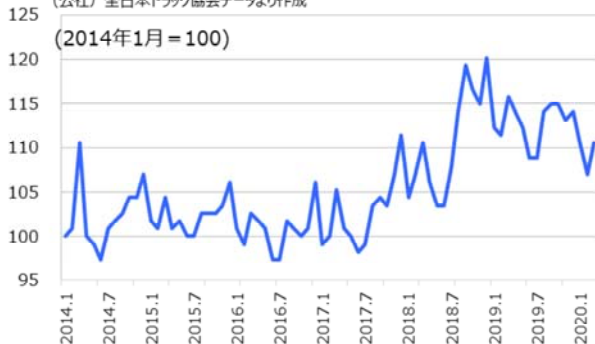
(\$/B) スポット備船市況



成約運賃指数

(公社) 全日本トラック協会データより作成

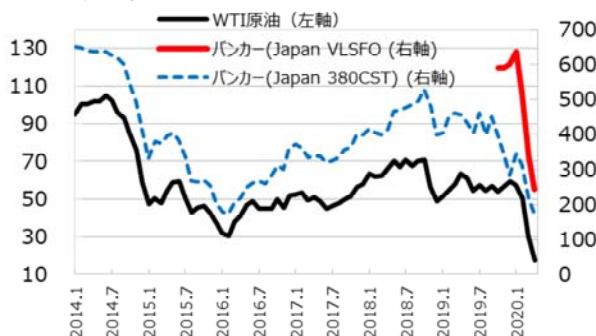
(2014年1月 = 100)







原油・バンカー市況

(WTI原油: \$/bbl)

(バンカー: \$/t)





資料名	URL	QRコード
JFEグループレポート 2019 (統合報告書)	https://www.jfe-holdings.co.jp/investor/library/group-report/index.html	
CSR報告書 2019	https://www.jfe-holdings.co.jp/csr/pdf/csr_2019_j_20191210.pdf	
CSR報告書 2019 環境データ集	https://www.jfe-holdings.co.jp/csr/pdf/jfe_data_2019_j_20191209.pdf	
ITレポート 2019	https://www.jfe-holdings.co.jp/investor/library/itreport/index.html	



JFE

Copyright © 2020 JFE Holdings, Inc. All Rights Reserved

本資料の無断複製・転載・webサイトへのアップロード等はおやめ下さい